

拡大物性委員会（物理学会インフォーマルミーティング）議事録

日時： 2012年9月18日（火）18:00 - 19:20

場所： 日本物理学会 2012年秋季大会 横浜国立大学 GA 会場

出席者（50音順）：秋光純(青学大理工)，家泰弘(物性研)，伊賀文俊(茨城大理)，石田武和(大阪府立大)，岩佐義宏(東大工)，上田和夫(東大物性研)，上田健太郎(東大工)，遠藤康夫(東北大)，大貫惇睦(琉球大)，小形正男(東大理)，賀川史敬(東大)，加藤勝(大阪府立大)，門野良典(KEK)，金道浩一(物性研)，倉本義夫(東北大理)，栗原進(早大理)，河野公俊(理研)，斎藤晋(東工大)，榊原敏郎(東大物性研)，佐藤正俊(CROSS 東海)，柴田基洋(東大工)，鈴木健士(理研)，鈴木孝至(広大先端物質)，関真一郎(東大工)，世良正文(広大先端物質)，高橋陽太郎(東大)，滝川仁(物性研)，田中智(大阪府立大)，谷垣勝己(東北大理)，土屋篤典(東大工)，戸川欣彦(大阪府立大)，徳永祐介(理研)，十倉好紀(東大)，中村敏和(分子研)，二木治雄(琉球大)，早川尚男(京大)，播磨尚朝(神戸大)，福山秀敏(東京理科大)，藤井保彦(CROSS 東海)，藤岡淳(東大工)，松田康弘(東大物性研)，三宅和正(阪大基礎工)，村上洋一(KEK 物構研)，山田和芳(KEK 物構研)

事務局：西田信彦(東工大)，西森秀稔(東工大)，古賀昌久(東工大)，大熊哲(東工大)

計 48 名

配布資料

- ・物性研報告
- ・京大基礎物理学研究所報告
- ・CROSS 報告と職員公募
- ・KEK 物質構造科学研究所報告
- ・創発物性科学(理研)のパンフレット
- ・ISIC17 のパンフレット
- ・APPC12 & ASEPS のパンフレット

報告

1. 西森事務局長より入退会状況および会計の報告があった。

(1) 入退会状況

2012年9月1日現在 グループ数 175 委員数 208 名 メンバー数 1035 名

(2) 会計

- ・主な支出は幹事会出席のための旅費および選挙に係る事務費・開票作業の人的費
- ・前回（2011年4月）の会員更新時より、会費を本来の半額にし、繰越金の一部を会員に還元している。

2. 西森事務局長より各種委員推薦・物性委員会幹事の選挙結果の報告があった(下記)。
なお、東大物性研人事選考協議会委員は物性幹事会における出席幹事の投票により
(平成24年9月8日開催の幹事会：出席幹事12名)，その他は物性委員からの郵

送投票（投票期間平成24年8月2日～31日：9月5日開票：投票総数110）により選出した。

東大物性研共同利用施設専門委員会委員（任期 H25.4.1-H27.3.31）

・物性物理分野から7名を推薦

順位	氏名	得票数	
1	寺崎一郎（名大理）	51	
2	松田裕司（京大理）	43	
3	世良正文（広大先端物質）	42	
4	摂待力生（新潟大理）	40	
5	小林達生（岡山大理）	37	
6	村田恵三（大阪市大理）	35	
7	播磨尚朝（神戸大理）	34	ここまで当選

8	青木勇二（首都大理）	31	
9	小山佳一（鹿児島大理）	28	
同	木村 剛（阪大基礎工）	28	

・物理化学分野から2名を推薦

順位	氏名	得票数	
1	鹿野田一司（東大工）	33	
2	吉村一良（京大理）	25	ここまで当選

3	中澤康浩（阪大理）	22	
4	東 正樹（東工大応セラ研）	21	

京大基礎物理学研究所運営協議会委員（任期 H25.8.1-H27.3.31）

・選出人数は7名。1位～4位の4名を委員、5位～7位の3名を補欠候補者として推薦

順位	氏名	得票数	
1	川上則雄（京大理）	68	
2	川村 光（阪大理）	61	
3	永長直人（東大工）	60	
4	倉本義夫（東北大理）	58	ここまで当選

5	田崎晴明（学習院大理）	52	
6	常次宏一（東大物性研）	50	
7	小形正男（東大理）	48	ここまで補欠

8	坪田 誠（大阪市大理）	47	

京大基礎物理学研究所共同利用運営委員会委員（任期 H25.1.1-H26.12.31）

・選出人数は7名。1位～4位の4名を委員、5位～7位の3名を補欠候補者として推薦

順位	氏名	得票数	
1	楠瀬博明（愛媛大理）	49	
2	黒木和彦（電通大）	47	
3	小口多美夫（阪大産研）	44	
同	柳瀬陽一（新潟大理）	44	ここまで当選

5	河野 浩（阪大基礎工）	39	
6	村上修一（東工大理工）	37	
7	多々良源（首都大）	35	ここまで補欠

8	小川哲生（阪大理）	35	*多々良氏と同票だが所属の重複を考慮した。
同	大野義章（新潟大理）	35	同上

物性委員会幹事（任期 H24.10.1-H27.9.30）

・選出人数は18名

順位	氏名	得票数	
1	家 泰弘（東大物性研）	88	
2	前野悦輝（京大理）	73	
同	村田恵三（大阪市大理）	73	
4	上田和夫（東大物性研）	71	
5	播磨尚朝（神戸大理）	70	
6	野尻浩之（東北大金研）	68	
同	村上洋一（KEK）	68	
8	石原純夫（東北大理）	64	
9	高木英典（東大理）	61	
10	早川尚男（京大基研）	60	
11	大塚洋一（筑波大物理）	58	
12	伊藤正行（名大理）	53	
同	藤 秀樹（神戸大理）	53	
同	前田京剛（東大総合）	53	
15	安藤陽一（阪大産研）	50	（後日、辞退）
16	中西 秀（九大理）	48	
同	野村一成（北大理）	48	
同	古崎 昭（理研）	48	ここまで当選

19	出口哲生（お茶の水女子大理）	45	（繰り上げ当選）
20	森 茂生（大阪府大工）	41	

森 初果 (東大物性研) 50 *票数では15位だったが同一部局3人目につき除外
東大物性研人事選考協議会委員 (任期 H25.4.1~H27.3.31)

・理論より1名

順位	氏名	得票数
1	西森秀稔 (東工大理)	8 当選

2	押山 淳 (東大工)	3 次点

・実験より1名

1	樽茶清悟 (東大工)	5 当選

2	谷垣勝己 (東北大理)	4 次点

3. 第12回アジア太平洋物理学会議 (APPC12: 2013年7月14日開催予定) プログラム委員の齋藤晋氏 (東工大) より、物性関係のセッションの紹介と参加協力の依頼があった。

4. 西田物性委員長より、「Asia Pacific Center for Theoretical Physics (APCTP)日本委員会からの依頼に基づき、古崎昭氏 (理研) と三宅和正氏 (阪大基礎工) の2名を委員として推薦した」との報告があった。なお「APCTP日本委員会会則には選挙で選ぶと書かれているが、物性委員会は幹事に候補者の推薦を求めたのち事務局で2名を選び、APCTP日本委員会に選挙で選ばない旨を伝えた」とのことであった。

議事

1. 会計報告について

- ・報告のとおり承認された。
- ・事務局より、繰越金にまだ余裕があるので会費の半額措置 (振込手数料事務局負担) はしばらく継続し会員に還元していきたいとの提案があり、承認された。

2. 各種委員・幹事の推薦について

報告のとおり承認された。

3. シリーズ企画「物性研究の現状と将来」

今回は十倉好紀氏 (東大, 理研) と早川尚男氏 (京大基研) に講演をしていただいた。

(1) 「理研の創発物性科学研究センターについて」 (十倉氏)

- ・理研および創発物性科学研究センターの概要: 新センターは2013年度より10年間の年限での、トップダウン型の戦略研究センター
- ・創発物性科学研究センターの目的: 持続可能社会へ向けた革新的新エネルギー機

能の原理提案と開拓

- ・創発物性科学研究センターの研究分野： 強相関物性物理, 超分子機能化学, 量子情報エレクトロニクスの3分野
- ・組織と規模, 推進体制: 27(+α)の研究室と約200名の研究者(公募制), 開かれた研究組織・研究コミュニティとの共生, 専門重視小規模研究から戦略的統合物性科学へのパラダイムシフトを先導, 大規模研究施設 (SPring-8, 京およびJ-PARC) を活用した提案型共同研究を展開, 世界トップの研究者を集結し協働する世界最高研究拠点を形成
- ・人材育成プログラム

(意見交換: 主なもの)

Q. 物性研究における従来型の(個々の専門性を重視した)小規模研究から戦略的研究へのパラダイムシフトを先導すると話されたが, もう少し説明をお願いしたい。国家戦略目標のもと, 皆で一丸となって研究を推進していくという印象を受けた。

A. 今日では, バイオや高エネルギー物理分野だけではなく, 物性の分野においても, 多くの最先端の研究者の協力が得られなければ世界に発信力のある研究成果がうまれにくくなっている場面や研究分野が現れている。そういう意味で物性研究における研究スタイルのパラダイムシフトが起こり始めており, そのような研究分野を選択的に取り上げていくことが重要と考えている。半導体の例を見てもわかるように, 個々の *curiosity-driven* のサイエンス研究から多くの革新的・実用的成果がうまれてきたことは言うまでもない。しかし, 物性分野だから戦略的研究ができないということはないはずである。純粋なサイエンス研究と(理研の理念にも掲げられている)人類の福祉に貢献する戦略目標的研究をどう整合させていくかを考えていく必要がある。

(2)「基研の現状と将来」(早川氏)

- ・基研の沿革と運営組織の概要
- ・現在の陣容と最近の特徴
- ・滞在型プログラム
- ・大型計算機
- ・PTP から PTEP への移行
- ・将来計画: 所長選考法, 60周年事業計画, 滞在型と従来型研究会, 若手スクールの主催(アジアを視野), 分野間交流の推進等

(意見交換)

Q. 滞在型研究会は物性物理分野ではあまり実施されていないようだが。

A. 滞在型研究会の枠は全体で年間2件程度しかなく, 物性分野にはそれほど回って来ない。ただし, 短期研究会はコンスタントに開催している。

4. 谷垣勝己氏(東北大理)より 17th International Symposium on Intercalation Compounds (ISIC17, Sendai, May12-16, 2013)の紹介があった。

以上